

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：地域振興対策費

事業名 ぎふ・富山交流バスツアー事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域振興課 地域プロモーション係 電話番号：058-272-1111(内2544)

E-mail：c11143@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 577 千円 (前年度予算額： 577 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	577	0	0	0	0	0	0	0	577
要求額	577	0	0	0	0	0	0	0	577
決定額	577	0	0	0	0	0	0	0	577

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

本事業は、東海北陸自動車道が全線開通した平成20年7月5日を「富山・岐阜交流の日」として両県知事が締結した協定書に基づき、両県の交流を一層促進するため実施することとなった記念事業の1つである。

平成21年以降、毎年7月に県民レベルでの交流促進を図る事業として、お互いの県の魅力を体験する日帰りバスツアーを実施している。

(2) 事業内容

<ツアー内容(予定)>

- 実施時期 令和5年7月(2コース)
- 募集定員 各40名(新型コロナの状況により調整)
- 実施形態 岐阜県民が富山県の行政施設、文化・景観・自然を体験できる施設を訪問するツアーを実施。訪問施設は富山県の提案を受けて決定する。
※富山県は、富山県民が岐阜県を訪問するツアーを同様に実施。

(3) 県負担・補助率の考え方
県10/10

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	16	業務旅費
需用費	2	消耗品費
委託料	547	ツアー実施委託料
役務費	8	参加者保険料
使用料及び賃借料	4	ツアーに同行する職員の有料施設の入場料及び利用料
合計	577	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力づくり
(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

(2) 後年度の財政負担

毎年度同程度の財政負担が必要。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

富山・岐阜交流の日にちなみ、両県の交流を目的とした観光バスツアーであり、両県民がお互いの県を体験することで理解を深め、より一層交流が促進されることを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R5 累計実績	R5-R6 累計目標	R5-R7 累計目標	終期目標 (H20-R9)	達成率
①バスツアー参加者数	—	-	-	—	400人	-

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定の7月実施を見送って影響が落ち着いた11月にツアーを開催した。また、新型コロナ対策として、1台あたりのバス定員を半数の20名として実施。</p> <p>発着地及びコースについては、地域バランスを考慮して設定するとともに、2コースのうち1コースは小学生以上の子供連れ優先で参加者を選定することとした。</p> <p>参加者アンケートでは、ツアー参加を大変満足又は満足と回答した人の割合は100%であった。参加者意見では、「富山の薬などの話からも富山県が少し近く感じることができました。」などがあり、両県の交流促進に一定の成果が得られた。</p>
	<p>指標① 目標：1,120人 実績：916人 達成率：81.7%</p>
令和3年度	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、2コース募集したが、1コースは中止となった。また、新型コロナ対策として、1台あたりのバス定員を半数の20名として実施。</p> <p>発着地及びコースについては、地域バランスを考慮して設定した。</p> <p>参加者アンケートでは、大変満足又は満足と回答した人の割合は100%であった。参加者からは、「富山県に行く機会が少なく、初めて行ったが、いろいろな発見があり、社会勉強になりました。」などの意見があり、両県の交流促進に一定の成果が得られた。</p>
	<p>指標① 目標：1,120人 実績：936人 達成率：83.6%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p>

又

指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>お互いの県民が、お互いの県をそれぞれ行き来し、実際に体験することで、相互理解が進むと考えられる。また自身の県に対する誇り・理解を深める効果もあり、本事業の実施は必要性が高いと考えられる。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>令和3年度は募集定員40名に対し328名もの応募があるなど、県民からの人気が高い。このように、毎年、実際に多くの県民に利用されている事業であり、富山県に対する理解を深めることにつながっていると考えられる。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>参加者の満足度は例年90%前後と、高いコストパフォーマンスが図られている。また、バスの発着地(毎年2か所)を毎年変える(飛騨圏域を除く各圏域を順番にまわす)ことで、より多くの県民が参加しやすい環境を整えている。令和3年度は1コースを2ヶ所からの発着とした。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業は県民から高い人気を得ている事業であるが、参加者の多くが年配者であったため、27年度に新機軸を打ち出し、2回のツアーのうち1回を子ども連れ優先とした。今後も、親子連れや若者、高齢者まで幅広い世代の参加を得ていく必要がある。 また、Withコロナに対応したツアーの実施を徹底する必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本事業は、平成20年7月に岐阜・富山両県知事が締結した「富山・岐阜交流の日」協定書に基づいて実施。事業開始以来、応募倍率が一貫して高く(平均7倍)、参加者の満足度も毎年90%前後であり、県民ニーズの高い事業である。 今後もこのニーズを踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対策(バスツアーにおけるガイドラインの遵守徹底)も行いながら継続実施していく。 富山県側も継続実施の意向であるが、両県でのコース設定についてバランスを取りながら進めていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	